

児童相談所職員と家庭児童相談員は子ども虐待対応にかかる連携をどう捉えているか

—児童相談所職員と家庭児童相談員への調査から見てくるもの—

○ 大阪成蹊短期大学 寅屋 壽廣 (7716)

高井 由起子 (関西学院大学・2729)、西山 直子 (大阪成蹊短期大学・9702)

[キーワード] 子ども虐待、児童相談所、家庭児童相談室

1 研究目的、研究の視点および方法

研究目的

- ・子ども虐待問題に対応する児童相談所職員と市町村児童家庭相談員の連携に関する課題認識を明確にする。

研究の視点および方法

- ・A 県内にある児童相談所職員と家庭児童相談員に対して、郵送留め置き無記名自記式質問紙によるアンケート調査を実施
- ・児童相談所職員 (2018年11月中旬～12月中旬)
- 家庭児童相談員 (2019年1月上旬～2月中旬)

2 倫理的配慮

- ・大阪成蹊短期大学研究倫理委員会、承認番号 H30-14 研究課題「児童相談所及び家庭児童相談室と幼稚園、保育所、小学校との連携についての調査として承認済み
- ・児童相談所には、事前に調・査目的を説明し、調査結果の報告や研究発表を行うにあたって固有名詞や個人等が特定される内容とはしないことを文書で説明、すべての調査対象者から同意を得ている。
- ・家庭児童相談室及び家庭児童相談員についても同様に文書で説明し、回答が得られた時点で調査対象者から調査協力の同意が得られたものとみなした。

3 研究結果

表-1 児童相談所職員が感じている市町村との連携に対する印象

区 分	うまくいっている	まあまあうまくいっている	あまりうまくいっていない	まったくうまくいかない	合 計
計	16(14.7)	76(69.7)	17(15.6)	0(0.0)	109(100.0)

表一2 家庭児童相談員が感じている児童相談所との連携に対する印象

区 分	うまくいっている	まあまあうまくいっている	あまりうまくいっていない	まったくうまくいっていない	合 計
計	14(25.9)	30(55.6)	10(18.5)	0(0.0)	54(100.0)

表-3 児童相談所職員の「あまり、まったくうまくいっていない」と回答した理由(複数回答)

区 分	情報共有に積極的でない	具体的な対応に二の足を踏む	かかわってほしくないという態度	その他	合 計	回答人数
計	4(14.8) 【23.5】	12(44.4) 【70.6】	1(3.7) 【5.9】	10(37.0) 【58.8】	27(100.0)	17 【100.0】

注1：() は合計に対する%の割合

注2：【 】は回答人数に対する%の割合

注3：四捨五入の関係で合計が100%にならない。

表一4 家庭児童相談員の「あまり、まったくうまくいっていない」と回答した理由(複数回答)

区 分	情報共有に積極的でない	具体的な対応に二の足を踏む	かかわってほしくないという態度	その他	合 計	回答人数
計	1(7.1) 【10.0】	7(50.0) 【70.0】	0(0.0) 【0.0】	6(42.9) 【60.0】	14	10 【100.0】

注1：() は合計に対する%の割合

注2：【 】は回答人数に対する%の割合

表-5 児童相談所職員の具体的な連携方法(複数回答)

区 分	課長などと直接やりとり	所長から依頼、ワンクッション必要	いつでも訪問、直接連絡が入る体制	市町村の都合で対応	その他	合 計	回答人数
計	30(22.1) 【27.5】	0(0.0) 【0.0】	101(74.3) 【92.7】	4(2.9) 【3.7】	1(0.7) 【0.9】	136(100.0)	109 【100.0】

注1：() は合計に対する%の割合

注2：【 】は回答人数に対する%の割合

注3：四捨五入の関係で合計が100%にならない。

表—6 家庭児童相談員の具体的な連携方法（複数回答）

区 分	課長など と直接や りとり	所長を通 す、ワンク ッション 必要	いつでも 訪問、直接 連絡が入 る体制	児相側の 都合で対 応	その他	合 計	回答人数
計	32(38.1) 【59.3】	1(1.2) 【1.9】	41(48.8) 【75.9】	4(4.8) 【7.4】	6(7.1) 【11.1】	84(100.0)	54 【100.0】

注1：() は合計に対する%の割合

注2：【 】 は回答人数に対する%の割合

注3：四捨五入の関係で合計が100%にならない。

表-7 児童相談所職員の連携がスムーズに行くために必要なこと（複数回答）

区 分	積極的に連 絡を取り合 う	必ず訪問し、 情報交換を する	連絡会議等 で顔の見え る関係	機会があれば訪問し、情 報交換	合 計	回答人数
計	90(41.9) 【82.6】	17(7.9) 【15.6】	75(34.9) 【68.8】	33(15.3) 【30.3】	215(100.0)	109 【100.0】

注1：() は合計に対する%の割合

注2：【 】 は回答人数に対する%の割合

注3：四捨五入の関係で合計が100%にならない。

表-8 家庭児童相談員の連携がスムーズに行くために必要なこと（複数回答）

区 分	積極的に連 絡を取り合 う	必ず訪問し、 情報交換を する	連絡会議等 で顔の見え る関係	機会があれば訪問し、情 報交換	合 計	回答人数
計	54(35.3) 【100.0】	23(15.0) 【42.6】	50(32.7) 【92.6】	26(17.0) 【48.2】	153(100.0)	54 【100.0】

注1：() は合計に対する%の割合

注2：【 】 は回答人数に対する%の割合

注3：四捨五入の関係で合計が100%にならない。

表－9 児童相談所職員の市町村にのぞむこと

区 分	計 (割合)	回答人数に対する割合
情報収集・共有・提供	8 (17.4)	【20.5】
役割分担・連携	19 (41.3)	【48.7】
専門性の向上	13 (28.3)	【33.3】
組織体制	5 (10.9)	【12.8】
その他	1 (2.2)	【2.6】
計	46 (100.0)	39 【100.0】

注1：() は合計に対する%の割合

注2：【 】 は回答人数に対する%の割合

注3：四捨五入の関係で合計が100%にならない。

表－10 家庭児童相談員の児童相談所にのぞむこと

区 分	計 (割合)	回答人数に対する割合
情報収集・共有・提供	4 (14.8)	【18.2】
役割分担・連携	11 (40.7)	【50.0】
専門性の向上	2 (7.4)	【9.1】
組織体制	4 (14.8)	【18.2】
一時保護	5 (18.5)	【22.7】
その他	1 (3.7)	【4.5】
計	27 (100.0)	22 【100.0】

注1：() は合計に対する%の割合

注2：【 】 は回答人数に対する%の割合

注3：四捨五入の関係で合計が100%にならない。

4 考察① ー結果からの考察ー

- ・児童相談所と市町村の連携については、児童相談所職員は「うまくいっている」「まあまあうまくいっている」と感じている者が8割以上、家庭児童相談員も同様に8割以上
- ・「まったくうまくいっていない」と回答した者は両職員とも皆無➡連携についてはうまくいっている。
- ・「あまりうまくいっていない」と回答した者が、児童相談所職員で15.6%、家庭児童相談員で18.5%
- ・理由として「具体的な対応については二の足を踏むことがある」と回答した者が、児童相談所職員で7割、家庭児童相談員も同様に7割、お互いにもっと積極的にかかわってほしいという思いをもっていることが判明

4 考察② ー今後についての考察ー

- ・児童相談所職員も家庭児童相談員も日頃の連携については特に大きな問題なし。
- ・日頃から必要があればいつでも訪問できるし、担当課長などと直接やりとりができる関係にある。
- ・一部の職員はもっと積極的にかかわってほしいという思いをもっている。
- ・両職員とも連携がもっとスムーズに行くためには、積極的に連絡を取り合うことや積極的に声をかけ、顔の見える関係をつくる必要があると考えている。
- ・相手の機関にのぞむことは、それぞれの機関がお互いに専門性の向上を図るとともに、日頃からの連携を強化し、忌憚のない意見交換ができる関係になっていくことで、より良い児童虐待への対応が可能になると考えている。
- ・児童虐待を防ぐとともに的確な対応を図っていくためには、役割分担の押し付け合いをするのではなく、お互いに忌憚のない意見交換し相互の了解のもとで対応していくことが大切であることが示唆された。
- ・このためには、家庭児童相談員の専任化をはじめ一時保護所の積極的な活用やケースワーカーの増員など、児童虐待による死亡をなくし、児童虐待の防止を図るための適切な組織体制への取り組みが必要である。